

# 滋賀県衛生科学センターあり方検討報告書（概要）

区分	現状	課題	求められる姿	コンセプト	検討すべき機能
----	----	----	--------	-------	---------

<p><b>試験検査</b></p> <p><b>調査研究</b></p> <p><b>研修指導</b></p> <p><b>情報提供</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●感染症検査</li> <li>●食中毒・食品検査</li> <li>●放射能検査</li> <li>●精度管理</li> <li>●大津市との連携・協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新興感染症（新型コロナウイルス感染症）等への対応</li> <li>●試験検査技術の継承・人材育成</li> <li>●新たな精度管理の取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●迅速・正確で質の高い検査機能</li> <li>●検査能力の拡充</li> <li>●精度管理等の信頼性の確保</li> <li>●他機関・団体の活用・連携</li> </ul>	<p><b>健康危機管理事案に最先端の知見で迅速に対応できる地域に開かれたセンター</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●迅速かつ適切で信頼性が確保された試験検査</li> <li>▶危機管理発生時の検査体制の整備</li> <li>▶検査業務経験者の確保</li> <li>▶組織的な品質マネジメント体制の構築</li> <li>▶他の試験研究機関との連携</li> <li>▶民間検査機関との役割分担</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公衆衛生情報の解析</li> <li>●健康寿命延伸のためのデータ解析</li> <li>●試験検査に関連した調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実地疫学・データ解析人材の育成</li> <li>●センター機能を発揮する調査研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新たな検査法の開発などの調査研究</li> <li>●食中毒等の事故を自県で解決できるサイエンスレベルの強化</li> <li>●国立感染症研究所との連携・人事交流</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●試験検査技術向上のための調査研究</li> <li>▶試験検査業務を適切に行うための調査研究等</li> <li>▶健康危機の予防的・予見的な視点からの調査研究</li> <li>▶実地疫学、データ解析人材の育成</li> <li>▶先進的な機関との共同調査・共同研究</li> <li>▶調査研究成果の関係機関、県民等への積極的な提供</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●健康医療福祉疫学統計コンシェルジュとしての支援</li> <li>●試験検査に関連した研修</li> <li>●放射線測定に関する研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●研修内容の充実</li> <li>●センター職員の資質向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保健医療福祉にかかわる技術職全体の人材育成</li> <li>●検査機関との技術および情報交流</li> <li>●地域住民に向けた教育講演等</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●センター業務に関連する専門的な研修指導</li> <li>▶職員の経験や技術力を継承し、研修指導業務を強化</li> <li>▶健康危機管理、健康寿命、精度管理についての体系的な研修</li> <li>▶研修対象は、保健所職員、市町職員、試験検査機関等職員、医療機関職員、学校保健関係職員、一般住民など幅広く対応</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公衆衛生情報の提供</li> <li>●健康寿命延伸のためのデータ提供</li> <li>●新型コロナウイルス感染症に係る情報提供</li> <li>●感染症危機管理への対応強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●データサイエンスの活用促進</li> <li>●データサイエンススキルの向上</li> <li>●県民への積極的な情報提供</li> <li>●感染情報センターとしての役割分担</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●疫学的な情報の収集・分析を実施できる機能</li> <li>●集積されたデータのデータベース化を行い、必要に応じてオープンソースとして、大学等に提供できる機能</li> <li>●データベース等を適切に扱うことのできる人材の確保</li> <li>●定期的に地域の特性を分析し、県民に公開、分析データを県政に反映</li> <li>●感染症情報センター機能の強化、サーベイランス機能、疫学解析能力、実地疫学・感染症検査能力の向上</li> <li>●広報部門を専門化して効率よく情報を発信</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●県民ニーズに応える公衆衛生情報の収集・解析・提供</li> <li>▶感染症の動向、人口動態調査など統計情報、地域における健康事象を随時把握・解析し、関係機関や地域住民に積極的に情報提供</li> <li>▶県、市町と連携を図り、収集・解析した情報を行政施策の企画立案に生かすため、情報を統合して分析するデータサイエンスの活用</li> <li>▶データサイエンススキルを習得できる研修体制の構築</li> <li>▶情報を効果的に伝えるため、ホームページだけではなく、SNS等を活用した地域住民への情報発信</li> <li>▶感染症情報センターの役割の検討</li> </ul>

<p><b>施設設備</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●雨漏れの発生</li> <li>●検査室等での電源不足</li> <li>●建物が2棟に分離、各部屋が狭隘</li> <li>●エレベータ未設置</li> <li>●検査機器の保守・点検</li> <li>●機器の更新延長</li> <li>●機器の点検間隔の延長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●建物の老朽化</li> <li>●適正な施設機能の確保</li> <li>●設備機器の精度確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●最先端の検査技術を可能とする施設の充実と機器の整備</li> <li>●BSL3実験室の充実、多検体処理可能リアルタイムPCR、次世代シーケンサーの拡充</li> <li>●免震構造等、耐震性に配慮するとともに、セキュリティの徹底</li> <li>●最新のICT技術を駆使した施設</li> <li>●県民等への研究成果の情報発信ができるスペースの確保</li> <li>●研修設備（オンライン会議、オンライン研修、情報・通信機能等の充実）のインフラを充実した建物に改築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●健康危機管理に対応できる強靱性のある施設</li> <li>●安全・安心な施設</li> <li>●効率的な業務運営に配慮した施設</li> <li>●セキュリティ対策を講じた施設</li> <li>●多様な人にやさしい施設</li> <li>●環境に配慮した施設</li> <li>●デジタルを活用した「届ける」を意識した施設</li> <li>●交流・関心が生まれるオープンな施設</li> <li>●フレキシビリティのある施設</li> </ul>
	<p>※実際に整備する施設設備の内容は、県全体の財政状況等を考慮し、基本計画の策定過程で令和4年度に検討</p>			